

2026年6月29日

株式会社小田急 S C ディベロップメント

【小田急沿線7自治体に寄贈】不用品19,641点の回収を通じて、
子どもたちへのあらたなギフト534点へ生まれ変わる
「マチチカ、ヒトチカ プロジェクト」第4弾『Re:born』実施報告

小田急沿線8商業施設で集めリユース企業と査定し、絵本・おもちゃなどを各地に届けました。



株式会社小田急 S C ディベロップメント（本社：東京都新宿区 代表取締役：細谷 和一郎 以下、当社）は、地域共生ステートメント「エキチカは、マチチカ、ヒトチカへ。」のもと、2025年10月17日(金)～11月24日(月・祝)に小田急沿線8商業施設で「マチチカ、ヒトチカ プロジェクト第4弾『Re:born』」として不要品回収やチャリティイベントを実施し、このたび、絵本やおもちゃなどを小田急沿線7自治体に寄贈いたしましたので、お知らせします。

本プロジェクトでは、お客さまの不要品19,641点を各施設に設置した回収箱で回収しました。回収した不用品は、ブックオフコーポレーション株式会社、学生服リユースshopさくらや、株式会社REGATEが査定。その査定額を「子育て応援」や「地域課題の解決」をテーマとして各自治体からご要望をいただいたギフトに変換し、小田急沿線7自治体へ計534点を寄贈しました。また、5つの商業施設でチャリティイベントも開催し、その参加料全額もギフトに充当しました。

今回は、株式会社小田急ビルサービスが不要品回収サポートと防災用保存水の無料配布を行い、株式会社カクヤスが経堂コルティ・成城コルティの2施設で廃食用油の出張回収とリターナブルびん入り飲料の販売を実施するなど、各パートナーと本プロジェクトを推進いたしました。今後も地域全体で「小田急グループ カーボンニュートラル 2050」の実現に向けて取り組んでまいります。

なお、次回の『Re:born』不要品回収は、2026年9月頃を予定しております。当社では事業活動と地域との関わりを通じて、環境課題の解決に取り組む姿勢を明確にするため、環境ステートメント「青でつなごう、ひと・まち・地球。」を制定いたしました。今後は、環境ステートメントの制定に基づき、本取り組みをはじめとする循環型社会の実現に向けた活動を推進してまいります。

■ 本プロジェクトの成果と振り返り

- ・不要品回収期間：2025年10月17日(金)～11月24日(月・祝) ※39日間
- ・不要品回収点数：19,641点
- ・チャリティイベント参加者：342名
- ・寄贈物品数：合計534点
- ・協力パートナー：
 - (1) ブックオフコーポレーション株式会社、学生服リユースshopさくらや、株式会社REGATE
(不要品査定、チャリティイベント)
 - (2) 株式会社カクヤス（廃食用油回収、リターナブルびん入り飲料販売 ※経堂コルティ・成城コルティのみ）
 - (3) 株式会社小田急ビルサービス（不要品回収作業サポート、防災用保存水の無料配布）

1. 寄贈について

(1) 新宿西口ハルクから新宿区へ

寄贈物品：絵本5冊
寄贈先：新宿区立角筈図書館
寄贈日：2026年4月24日(金)



(2) 経堂コルティ・成城コルティから世田谷区へ

寄贈物品：遊具27点・絵本108冊
寄贈先：世田谷区立児童館・図書館
寄贈日：2026年5月18日(月)



(3) 新百合ヶ丘エルミロードから川崎市麻生区へ

寄贈物品：ベビー用品12点・遊具9点・絵本4冊
寄贈先：川崎市麻生区役所
寄贈日：2026年4月28日(火)



(4) 相模大野ステーションスクエアから相模原市へ

寄贈物品：ボードゲーム21点・絵本21冊
寄贈先：相模原市南区役所
寄贈日：2026年5月21日(木)



(5) ビナウォークから海老名市へ

寄贈物品：遊具5点・絵本20冊
寄贈先：海老名市子育て支援センター
寄贈日：2026年4月27日(月)



(6) 本厚木ミロードから厚木市へ

寄贈物品：お子さま用歯磨き粉276点

寄贈先：厚木市役所

寄贈日：2026年4月30日(木)



(7) ODAKYU 湘南 GATEから藤沢市へ

寄贈物品：絵本26冊

寄贈先：藤沢市総合市民図書館

寄贈日：2026年5月19日(火)



2. 本プロジェクト開催の背景

小田急グループは経営ビジョンとして、地域とともに成長する「地域価値創造型企業」を目指しています。このビジョン実現のため、当社は、地域共生ステートメント「エキチカは、マチチカ、ヒトチカへ。」を制定し、地域社会に貢献すべく、地域の様々なステークホルダーと共創し新たな取り組みに挑戦しています。

本プロジェクトは、地域共生ステートメントを体現し地域の未来に貢献する取り組みの第4弾として実施されました。当社各商業施設が立地する7自治体の「子育て応援」や「地域課題の解決」に貢献するため、お客さまのご家庭の不要品を回収し、ギフトに変換する活動を展開しています。

プロジェクト概要：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000256.000063373.html>

■ 参考

【参考1】株式会社小田急 S C ディベロップメントについて

小田急グループにおける商業施設の運営・開発事業を一貫して担う会社として、2020年4月1日に設立されました。

URL：<https://www.odakyu-scd.co.jp/>



【参考2】株式会社小田急 S C ディベロップメントの「地域共生ステートメント」について

当社では、より地域社会の発展に貢献していくことを目的に、2022年12月に地域共生ステートメント「エキチカは、マチチカ、ヒトチカへ。」を制定いたしました。

今後も、当社では小田急の商業施設がお客さまと地域をつなげる「接点」となることを目指し、様々な取り組みを展開してまいります。

URL：https://www.odakyu-scd.co.jp/csr/local_relationship/



【参考3】株式会社小田急 S C ディベロップメントの「環境ステートメント」について

当社では事業活動と地域との関わりを通じて、環境課題の解決に取り組む姿勢を明確にするため、環境ステートメント「青でつながろう、ひと・まち・地球。」を制定いたしました。

私たちは事業活動を通じて、脱炭素や循環型社会の実現に取り組んでまいります。

URL：<https://www.odakyu-scd.co.jp/csr/sustainability/>

